

ブレずに責任感ある施工を続けて20年 さらなる未来を見据えて前進を続ける塗装業者



東京都墨田区八広 3-39-3
URL : <http://nakapen.co.jp/>



「対談を通し、中尾社長はまさに職人気質だという印象を受けましたよ。職人として大事にすべきことを忘れることなく着実に歩んできたからこそ、20周年という大台に到達できたのでしょう。社長の後継者となる予定のご子息も社長を大変尊敬しているようでした。格好良い背中をこれまでずっと見せ続けてきたんでしょうね。今後も頑張っていって下さい！」

大沢 樹生：談

中尾 幸生

代表取締役



career

学業を修了し、最初は友人のつてを辿り就職。その後、自らの天職を探し求め様々な業種を渡り歩いた。そして最終的に行き着いたのが塗装業。独立できそうだからという理由で選んだ仕事だったが、その魅力に次第に没入し始めていった。27歳の時に、個人事業主として独立。そして今年、『ナカオ塗装』として法人化して20年目の大台を突破した。現在では息子である中尾祐太氏を育て上げ、将来的に己の後継を任せようと考えている。

東京都墨田区で、一般建築塗装、各種吹付、防水工事などを手掛けている『ナカオ塗装』。同社の中尾社長は、塗装業界に入り30年以上のベテラン。丁寧で綺麗な塗装をすることに喜び、顧客の笑顔こそが最大の原動力なのだそう。本日は社長のもとを俳優の大沢樹生氏が訪問し、インタビューを行った。

「ナカオ塗装」さんは、法人化してから今年で20周年を迎えるそうですね。おめでとうございます！

ありがとうございます。ひたすら突き進んで、ふと振り返ってみると20年経っていった、という感覚ですね。これからもお客様への感謝を忘れず働き続け、さらに10年、20年と当社をより長く繁栄させていきたいと思っています。

確かに仕事で多くのお客様の信頼を掴んできたからこそ、ここまでこられたというところでしょね。

業界において同業他社は五万といますからね。少しでもおさなりの仕事をすれば、



▲中尾社長のご子息である、中尾祐太氏

column

父親の背中を追ってここまで来た—— 覚悟を背負い、一人前の職人を目指す

▼「ナカオ塗装」で働く職人の一人、中尾祐太氏は、創業者である中尾社長のご子息。同氏は学生時代、「一番になりたい」という熱い思いを胸に秘めながら、サッカーに青春を捧げたという。そして情熱を燃やし真剣にサッカーに向き合い精進を続けた結果、高校生時代、見事に日本一の栄冠に輝いたのだった。長年夢見た、一番になるという願望を叶えてみせたのだ。

▼経営者であり、職人である父親を見て育ち、その背中に尊敬の念を抱いていたという中尾祐太氏。社会に出てからすぐに家業に入りたいと意欲を示したが、母親の勧めもあり進学し、学業修了後に家業に入って今に至る。父親の期待を一身に受け、代替わりに対しての覚悟はすでにできている。自身の部下の中には、かつて日本一を勝ち取った際に一緒だったという部活の後輩もいるそうで、「次は塗装という別のフィールドで皆と日本一を目指したい」と自らの心情を語ってくれた同氏の未来が、今後も楽しみでならない。

自然と淘汰されていくわけですね。従ってきつくりクレームのないように仕上げるのは、当然のことですよ。こういった部分はわざわざ従業員に指導することもありません。なぜなら、各々がすでに理解してくれているからです。仮に仕事の上で気になったことがあれば、従業員たちのお互いに指摘し合えるような環境も構築できています。同じく当たり前のこととして、挨拶などお客様に対する礼儀の部分も徹底させています。いくら技術に長けていても、そこが駄目なら意味がありません。

従業員さんたちが一丸となり、真摯に仕事に向き合っていることが窺えます。では、これまで経営してきた中で、ピンチなどはございましたか。

初めから上手いほど甘くはありませんでした。借金をしながらの仕事を苦勞を味わった時期もありましたが、今では遠い昔のことですよ。それに、「自分にはこれしかない」という思いは常にありましたから、挫けそうになったことは一度もありません。「なんとかなるだろう」といつも

考えていましたよ。それは決して楽観視していたわけではなく、自らの仕事に自信と誇りを持っていたからこそです。
現在は何名体制でお仕事をなさっているのでしょうか。

今は6名です。当社で腕を上げ、独立するという形で辞めていく人が多いですね。ただ、それを止めようという気持ちは一切ありません。私も独立する前は「いつか自分」という気持ちに溢れていましたからね。もちろん全員が全員上手いわけではないから、「駄目だったらいっつも帰ってこい」というスタンスです。大事なのはチャレンジすることです。

懐が深いですね。多くの優れた職人が社長のもとで生まれたことでしょうか。御社を築立っていき、成功した方々のお付き合いなどはあるのでしょうか。

もちろんです。たとえば当社が忙しくなった時に、「一週間だけうちに来てくれ」という風に頼むことがあります。このような形が今は理想かなと考えていますよ。当社でたくさん人を抱えずに首が回らな

くなりますからね。

若い方との間に、考え方の違いなどを感ずることもあるのでは。

あまりないですね。従業員たちの仕事をばりを見るに、多少の価値観の違いはあれど、皆で同じ方向を向くことはできていると感じます。従業員の中には私の息子もいます。近くでその成長を見れることを嬉しく思っていますよ。一級塗装技能士の資格の勉強など、頑張っているようです。そういった資格は皆に持っているほしいので、資格などの試験代は全て当社で出しているんですよ。従業員が資格を取れば、会社としての信用も高まりますからね。投資したお金は最終的に、当社にとって良い形で返ってくると思っています。

従業員さんからしても、ありがたいと思いますよ。では、この20年事業を継続できた理由は何だとお考えですか？

要因と言えるものを一つ挙げるとすれば、ずっと軸がぶれなかったことだと思います。その軸というのは、先ほども申しましたが礼儀に関する部分を徹底することだったり、従業員たちと家族のような関係性を構築し、協力することだったり様々です。そんな中で、全員が昔から共通して持っている一番のモチベー

ションはお客様に喜び、感謝していただくことです。どれだけキャリアを重ねても、そこだけはやっぱり揺らぐことはないんですよ。

それが、職人としてあるべき姿だと私も思いますよ。それでは最後に、社長の今後の展望について教えてください。

若い戦力が入ってきてくれることを望んでおりますので、外国人の技能実習生の受け入れを考えています。もちろん、日本の方も歓迎しますよ。そして当社で今の倍くらいの人を抱えることができたらいいですね。あまり会社の規模を大きくしなくても従業員たちに目が届かなくなってしまうから、自分の目の届く範囲が上限になります。そして今以上に精力的に営業をやっていきたいと考えています。

もう一つ考えているのは、後継に関して。後10年ほど職人のキャリアを続けた後、息子に後を継いでもらいたいんです。その後私は当社の会長となり、事務などの形で貢献していこうと思っています。従って目下の目標は、培ってきたことを全て息子に落とし込み、経営者としても職人としても一人前に育て上げることですね。バックアップは惜しみませんから、息子には今以上に奮起して、己を磨いていってほしいです。